
基準 2. 教育研究組織

1. 現状説明

(1) 短期大学の学科・専攻科等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

1) 教育組織の編制

本学は、社会福祉学科とこども教育学科の2学科で構成している（「短期大学基礎データ」(表 1)のとおり）。

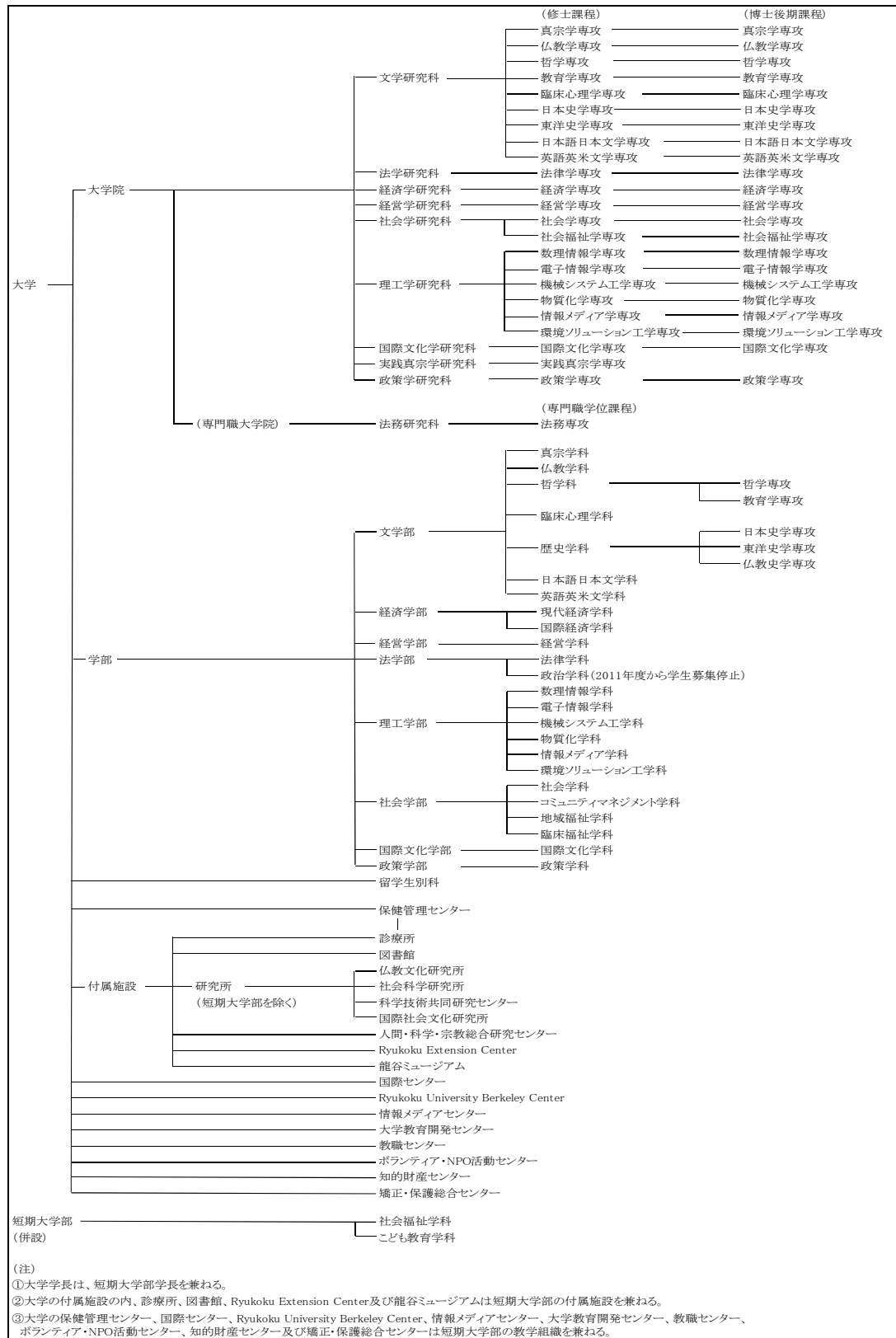
本学は、教育基本法ならびに学校教育法による短期大学部として、浄土真宗の精神に基づき実際に即した専門の教育を施し、併せて有為の人材を養成することを目的としている。本学の理念・目的は、龍谷大学短期大学部学則に定めている（資料 2-1）。

本学では、実習指導室や社会活動センター、こども教育多目的室、教職センター等を整備し、そこに教職員を配置し、社会福祉施設、保育所、幼稚園等への実習支援を行っている。特に社会活動センターでは、地域との交流や学生のボランティア活動支援、知的障がい者のオープンカレッジが円滑に実施できるように調整していく機能を担っている。

4年制大学を併設しているという利点も活かし、地域貢献の拡充をはかるための組織である Ryukoku Extension Center（略称：REC<レック>）と連携し、学生の正課外の学びの場の機会としている。FD 活動を積極的に促進させていくための大学教育開発センターにおいては、各種報告会等を開催している。その他、図書館、情報メディアセンター、「Ryukoku University Berkeley Center（略称：RUBeC）、国際センター、知的財産センター、ボランティア・NPO 活動センター、診療所、保健管理センターは、全学的な教育研究組織として本学の理念・目的に則り運営している。

学校法人龍谷大学寄附行為で定める学部・研究科、および学則で定める教育組織、付置研究所関係規程で定める研究組織は、図 2-1「教育研究組織図」のとおりである。

図 2-1 教育研究組織図（2012 年 5 月 1 日現在）



2) 理念・目的との適合性

本学は 1975 年以降、建学の精神に基づいた教育理念および学術の進展や社会の要請に応えるために策定した長期計画の推進により、計画的・段階的に教育研究組織を拡充してきた。第 1 次～4 次長期計画は、各時代の大学教育に対する社会的要請を踏まえて、本学の教育理念を教育研究組織として具体化してきた過程でもある。新たな教学創造を促進する上でこのような目標と計画を立て、それを確実に実行していくことは、改革目標が全学的に明らかになることから、教育目標を達成する上で有効な手段であり、現在第 5 次長期計画を推進中である。[※ 第 5 次長期計画：2010 年度～2019 年度]

このようなことから、本学は、理念・目的に適合した趣旨により、設置・再編を行い組織している。

3) 学術の進展や社会の要請との適合性

本学は、学術の進展や社会の要請を踏まえた長期計画に基づき、教育研究組織の設置・再編を行ってきた。創設以来、人間性豊かで深い学識と教養をそなえる人材の養成に努め、第 5 次長期計画のもとでは、建学の精神に基づき、「平等」、「自立」、「内省」、「感謝」、「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間育成を「教育にかかる基本方針」として掲げている。社会福祉学や保育学、幼児教育学を基本とした本学の教育理念や目的は、建学の精神に則り実践されている。また、社会的に、社会福祉施設や保育所等の人材不足が課題とされる中、本学は開学以来、一貫して社会福祉現場等で必要とされる人材養成に努めてきている。

(2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

教育研究組織の適切性について検証し、幼保一元化等の社会のニーズに応えるべく、2011 年度にこども教育学科を設立し、保育士に加え幼稚園教諭の二種免許状の取得が可能となるよう再編した。また、全学において自己点検・評価制度を構築し 2011 年度から実施し、短大自己点検・評価委員会においても教育研究組織の適切性について毎年度検証を行っている。

2. 点検・評価

○基準の充足状況

本学の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切に設置・再編している。また、2011 年度より毎年度実施している自己点検・評価の中で教育研究組織の適切性についての評価項目を設定し、定期的かつ適切に検証を行っている。今後も定期的かつ適切に教育研究組織の適切性について検証し、新たな教学展開についての将来構想にかかる検討を進めていく。

（１）効果が上がっている事項

全学の第４次長期計画および第５次長期計画において、学科再編計画が検討され、本学においては2011年度に社会福祉科の単一学科体制を社会福祉学科とこども教育学科の２学科体制に再編した。これにより、こども教育学科に入学した学生は、保育士資格と幼稚園教諭二種免許状が取得できるようになった。[※ 第４次長期計画：2000年度～2009年度]

また、本学の教育研究組織の適切性について定期的に検証を行うため、自己点検・評価制度を構築し、2011年度から教育研究組織の適切性について毎年度検証を行っている。

（２）改善すべき事項

教育組織の改革としては、全学の長期計画に基づき学科の改組、教学機関の新設等を行った結果、教育の多様化という点では一定達成できたと評価できる。

学部の専門教育、教養教育、語学教育の各々の位置づけと役割を明確にし、それらを有機的に連携させ、教育課程の再編と水準向上を踏ることが第５次長期計画では重要であると認識している。教育研究組織の適切性について定期的に検証を行うため、自己点検・評価制度を適切に活用していく必要がある。特にこども教育学科は2012年度で完成年度を迎えるため、2013年度中には教育内容を検証し、改善点を明確化していく予定である。

３．将来に向けた発展方策

（１）効果が上がっている事項

第４次長期計画の中で、新たな教学展開として、こども教育学科を開設した。幼保一元化等の流れを踏まえ、幼稚園免許の取得が出来るようになった事は、社会のニーズとも合致した政策であった。

（２）改善すべき事項

今後も、学術の進展と社会の要請に応えるため、第５次長期計画に基づいた「教育組織の見直しと既存学部の教学改革・新学部創設」、「学士課程教育の充実と学位の質保証」、「教育の国際化の推進」等の課題について検討を行い、さらなる教学展開を図っていく必要がある。

また、教育理念・目的の適切性について、短大自己点検・評価委員会にて毎年度検証を行っていく。

４．根拠資料

2-1 平成24年度 学則・諸規程（既出 資料1-1）